

「早くやりたい」の実現を目的とした授業構成の検討

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

氏 名 棚橋 実加

本研究は、「協働性」の向上が報告されている知識構成型ジグソー法を応用した手法を用いて、第1学年のマット運動の実践を試みた。仲間と課題について考え合い、技を習得、習熟する過程で実践の成果と課題を考察することで、生徒の「早くやりたい」の実現を目的とした授業のあり方の可能性を探ることを目的とした。

授業実践の成果として、他者との関わり合いの中で生徒は互いに積極的に声をかけ合い、一人でも多く自分の教えによって上達できるよう取り組むことができていた。その過程で生徒の「早くやりたい」という主体的な気持ちにつながることができた。一方、3つの課題が挙げられた。1つ目は、授業構成や時間配分の検討であった。2つ目は、生徒の技の習熟度の差による技術面への学習支援不足であった。3つ目は、生徒の「早くやりたい」という主体的な気持ちは「責任感」から生まれるということであった。